



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三七一号〕

小満 しょうまん

五月二十一日

宇田荻邨と本居宣長 てきそん

三重県出身の日本画家というどだれを思い浮かべますか。

今、三重県立美術館で開館四十周年記念の「宇田荻邨展」が開かれています。荻邨は松阪市に生まれ、大正から昭和の時代にかけて京都画壇を代表する日本画家として活躍しました。私も流麗な画に魅了される一人です。

今回は宇田荻邨のふるさと、三重県での展覧会ということで、松阪など三重県とのつながりにもふれられていました。まず、松阪第一尋常高等小学校（現在の松阪市立第一小学校）時代から優れた画才を表わしていた荻邨は二見町の中村左州さしゅうに手ほどきを受けていました。左州といえは、「鯛の左州」といわれ、精緻せいちなタッチで知られますが、伊勢神宮の風景もよく描いた日本画家です。「松樹」という作品は、荻邨が伊勢神宮の御塩を作る「御塩殿」を描いた際に見た二見浦の松ではないかと考えられています。神さびた松の樹は、潮風に吹かれているようにも感じました。

また、展覧会場に入っすぐに、江戸時代の国学者・本居宣長の肖像もとおりのりなが画が展示されていました。宣長が文机の前に座り、山桜を愛でている自画像の構図です。この自画像の構図を荻邨が描いていたのです。荻邨は同郷の本居宣長を崇敬してやまなかつたからといえます。そして、宣長の愛した山桜を、荻邨もまた愛し、描いていました。朱の若葉と白い花びらの山桜が美しい作品は本居宣長記念館に寄贈されたものです。荻邨は画の技術を中村左州から学び、精神を本居宣長に求めていたのです。会場を出ると今度はシイなどのみずみずしい若葉が一面に茂っていました。緑の美しい季節に、宇田荻邨の画はふさわしいと思った次第です。

展覧会は六月十九日まで。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『夏まちまつり』

夏が待ち遠しい季節、昔の人々がどのように暑さをしのぎ、夏を楽しんできたかを探り、先人達の夏の過ごし方を一緒に楽しんでいただくお祭りです。

と き／6月3日(金)～5日(日) 10:00～17:30 ※催しによって開催日時が異なるものもございます。

ところ／おかげ横丁一帯(雨天時は一部中止)

● 夏まち大道芸

うっとうしい梅雨空を晴らすかのように繰り広げられる大道芸。

昔懐かしいバナナの叩き売りやガマの油売り、子どもから大人まで楽しめる紙芝居などをお楽しみください。

と き／6月4日(土)、5日(日)

ところ／おかげ横丁一帯

出演(予定)／三ツ沢グッチ(紙芝居)、石原耕(口上芸)、ももっち(ジャグリング)、ゼロコ(パントマイム)

● 浴衣のレンタル

お気に入りの浴衣を選んで、素敵な姿で町をそぞろ歩きましょう。女性用はもちろん、男性用、お子様用もご用意しています。

と き／6月3日(金)～5日(日) 受付10:00～16:00

料 金／2,900円～

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

協 力／すかや呉服店

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、内容の一部または全体を中止する場合があります。

五十鈴塾

○『織田政権末期の三重～本能寺の変の頃～』

本能寺の変は、歴史好きの人びとをとらえてやまない大事件です。

大事件ゆえに、連動して当時の三重県域でもさまざまな動きがありました。

徳川家康の伊賀越えの逃避行はあまりにも有名ですが、それ以外にも多気町付近で起こった北畠氏の末裔の反乱が特筆されます。

なお、神宮では式年遷宮が準備されていた時期です。

織田政権から豊臣政権に移行する直前の三重県域の様子をひもときます。

と き／5月23日(月) 13:30～15:00

講 師／太田 光俊(三重県総合博物館学芸員・博士(文学))

参加費／一般 1,450円 会員 950円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

ばな
どんど花

菖宮跡のある明和町には花菖蒲の原種、ノハナショウブが群生しています。「どんど」と呼ばれる取水口付近にたくさん咲いていたことから「どんど花」の愛称で親しまれています。濃紫色の美しい花を、三色の練り切りで表現しました。

いせなでしこ
伊勢撫子

またの名を「御所撫子」とも呼ばれ、その昔、斎王となられた皇女が遠く都を懐かしみ御所から移し植えたと伝えられています。薄紅色の羊羹をきんとんに仕立て、今が盛りと咲く、優雅な伊勢撫子に見立てました。

あお
青
うめ
梅

雨の恵みを受け、ここ伊勢の地でも青梅が目にも清々しく、実りの時を迎えようとしています。刻み梅入りの白餡を、外郎で包みました。爽やかな青梅の香りが嬉しい、五月雨の便りです。